

MMQC ニュース

Vol. 185

令和7年5月1日(木)

発行:(有)エー・エム・アイ

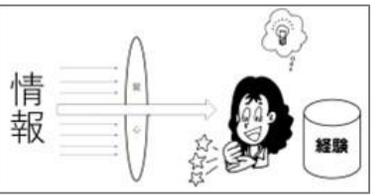
皆様の「流儀」は如何でしょうか？

私の流儀は「自社で出来ないことは言わない」というコンサルティング・スタイルです。Faxから始めHP、システム構築、メールそしてAIへと幅を広げて来ました。AIはドンドン進化する分野と期待しており新しい流儀が誕生すれば嬉しいです。栩野

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「情報」⇒「知識」⇒「見識」⇒「胆識」⇒「流儀」(文化)

右掲は「関心フィルター」と呼ぶイラストです。最近ネット社会で無数に近い情報が端末に届く時代ですが、その中から「関心」のある情報だけを選ぶ傾向があります。そして、頭の中に「経験」が記憶域に蓄積されて行きますが、それは「情報」というレベルです。この「情報」を確認すると「知識」となり、その「知識」を実践すると「見識」と高まり、その積み重ねで「胆識」となり「自信」が生まれ、その行動は成果につながり易いものになります。さらに、「胆識」が増えると自分の流儀が生まれて「個性」を形成するようになります。企業では企業文化に発展します。



例えば、私は平成6年('94年)に船井総研の客員経営コンサルタント養成学校で「船井流」を学びましたが、約8ヶ月のスクールなので講師から教えて頂いたことが「情報」から「知識」にはならない状況だったのです。これを補講する形で卒業生の集まりや船井総研のセミナーなどを手伝う機会を得て「知識」化する事ができたのです。つまり、スクールで学ぶだけでは身に付かない「情報」だったのですが、補講などで「情報」を再確認して少しずつ「使える情報」(≒知識)となったのです。つまり、このような環境を作り「関心」(船井流)を何度も反復することで自然に身に付き「知識」となったと思っています。

しかし、このように「知識」と確信するようになって、経営コンサルタントとしてお客様に提供するには「深さ」が不足している。「見識」になるまで実践の場で経験することが大切だったのです。そして、「場数を踏む」ことで「本質」的なものを身につけて「胆識」レベルにUPして、自分流の「流儀」になったのです。私の場合は、「形は心を動かす」という信念で、当時、企業なら100%普及しているFaxを活用する「Faxちらし・3段活用マーケティング」と商品化して、「術」として磨きかけたのです。特に、レスポンスの10倍潜在客がいるという統計的な確信で「後フォロー」して頂く指導で営業員の行動変革を起こしたのです。

「自然学習」⇒「風土」⇒「文化」

一般的に「自然学習」は「自然のなかでの体験をとおして、子どもの思考や行動の基礎となる力をつける教育」と言われていますが、前述のように、「環境」の中で体験を繰り返して「自然」に「情報」を深めて「知識」として学習することは「風土」づくりに必要な事です。例えば、「芸」の世界では「流派」に所属して手解きを得て、それを「守・破・離」の3段階で深めて行きます。「守」は「真似ぶ」という「学び」を繰り返す段階ですが、徐々に神髄(悟り?)を感じて「コツ」を掴み「免許」を授けられて学ぶ側から脱出する「破」のレベルになります。その「コツ」を反復することで自分流になり「離」となって一本立ちするのです。船井流では「破」の段階は教えるだけの「インストラクター」と位置づけており、「離」の状況を「コンサルタント」と定義していました。

私の場合、平成7年に創業して、紆余曲折がありましたが良いお客様に恵まれてお蔭様で創業30年を迎え、三男に事業承継しようとしています。しかし、事業と言っても「お客様」を引き継いでもらい、三男の事業で貢献してもらおうと考えています。既に着手している業務代行をベースにしながら、無限に発展するAIの分野を取り入れた「業務改善」でプラスαの貢献が出来るように準備を進めています。従って、三男の「守・破・離」は、まず「守」はお客様の業務を代行する中でDXやAIで貢献できる分野を見つけ、「破」でDXやAIを展開する支援ビジネスを確立して事業体制を構築して、「離」としてDXやAIを展開する支援ビジネスの分野で新しいお客様を開拓することになると考えています。

今後、人材を獲得して「DXやAIで支援するサービス」が共有できる環境を構築して「自然学習」で人材育成する「風土」を確立して欲しいと思っています。この「風土」を「凡事一流」の精神で極めてくれれば新しい企業「文化」になると期待しています。その為には企業の財務体質を改善する必要があり、チャンスがあれば人材投資が出来るように備えたいと考えています。なかなか、新しい文化を確立するのはリーダーシップの問題もあり難しいですが期待しています。

ワンポイント・アドバイス

企業にはそれぞれの風土がありますが一つの集団として見える風土づくりが必要です。個々の個性を尊重しながらも統一した「凡事」を徹底することで一つの集団風土ができます。これを徹底すれば「凡事一流」と呼ばれる尖った存在(ブランド)になり企業文化として見える形になります。風土は見えにくいですが、突出すると見える形になります。「凡事一流」で実践しましょう。

